

第89回 簿記実務検定第1級試験問題 原価計算 (制限時間 1時間30分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

A組製品	B組製品	/級製品	2級製品
3級製品	素材	消費材料	売上原価
従業員賞与手当	仕損費	製造	A組製造
B組製造	組間接費	材料消費価格差異	本社
工場	場		

a. 単純総合原価計算を採用している岩手製作所は、月末に工場の従業員に対する賞与の月割額を計上した。なお、半年分の賞与の支払予定額は ¥3,480,000 である。

b. 東北製作所の素材に関する資料は次のとおりであった。よって、予定価格による消費高と実際価格による消費高との差額を消費材料勘定から材料消費価格差異勘定に振り替えた。ただし、素材の予定価格は @¥400 であり、実際消費単価の計算は総平均法によっている。

前月繰越高	300個	@¥380	¥114,000
当月仕入高	1,200〃	〃 430	¥516,000
当月消費数量	800〃		

c. 組別総合原価計算を採用している青森工業株式会社は、組間接費を各組の組直接費を基準として配賦率を求め、A組とB組に配賦した。なお、当月の製造費用は次のとおりである。

	A組直接費	B組直接費	組間接費
材料費	¥3,520,000	¥1,280,000	¥350,000
労務費	¥5,860,000	¥2,240,000	¥970,000
経費	¥1,470,000	¥1,130,000	¥1,780,000

d. 等級別総合原価計算を採用している宮城工業株式会社は、月末に等級別総合原価計算表を次のとおり作成し、等級別に製造原価を計上した。

等級別総合原価計算表
令和〇年/月分

等級別製品	重量	等価係数	完成品数量	積数	等級別製造原価	製品単価
1級製品	120g	1.2	800個	960	1,584,000	¥1,980
2級製品	100〃	1.0	1,000〃	1,000	1,650,000	〃1,650
3級製品	80〃	0.8	600〃	480	792,000	〃1,320
				2,440	4,026,000	

e. 工場会計が独立している秋田製作所の本社は、さきに得意先山形商店に売り渡した製品について、月末に製造原価は ¥1,300,000 であったと工場から報告を受け、売上製品の原価を計上した。ただし、売上原価勘定は本社に、製品に関する勘定は工場に設けてある。(本社の仕訳)

f. 個別原価計算を採用している福島製作所は、補修指図書#3-1に集計された製造原価 ¥7,000 を仕損費勘定に計上していたが、本日、これを製造指図書#3に賦課した。

2

鳥取製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 工程別総合原価計算表を完成しなさい。
- (2) 第2工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費を答えなさい。
- (3) 第1工程半製品勘定を完成しなさい。

ただし、i 第1工程の完成品原価は、すべて第1工程半製品勘定に振り替えている。

ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、第1工程の完成品は第2工程の始点で投入されるものとする。

iii 加工費は第1工程・第2工程ともに製造の進行に応じて消費されるものとする。

iv 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資 料

a. 生産データ

	第1工程	第2工程
月初仕掛品	400個 (加工進捗度50%)	600個 (加工進捗度40%)
当月投入	2,300個	1,800個
合 計	2,700個	2,400個
月末仕掛品	200個 (加工進捗度50%)	400個 (加工進捗度60%)
完 成 品	2,500個	2,000個

b. 当月製造費用

① 工程個別費および補助部門個別費

	第1工程	第2工程	補助部門
素 材 費	¥1,817,000	—	—
労 務 費	¥1,380,000	¥920,000	¥142,000
経 費	¥ 376,000	¥352,000	¥ 38,000

② 部門共通費を次のとおり配賦する。

第1工程 ¥128,000 第2工程 ¥112,000 補助部門 ¥80,000

③ 補助部門費を第1工程に60%、第2工程に40%の割合で配賦する。

c. 月初仕掛品原価

第1工程 ¥ 460,000 (素材費 ¥316,000 加工費 ¥144,000)

第2工程 ¥1,116,000 (前工程費 ¥924,000 加工費 ¥192,000)

d. 当月中に第1工程半製品1,800個を次工程に引き渡し、700個を外部に販売した。なお、払出単価(原価)は ¥1,620 である。

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 鳥根製作所の下記の資料により、製造原価報告書に記載する次の金額を求めなさい。

a. 当期材料費

b. 当期経費

c. 当期製品製造原価

資 料

- ① 素 材 期首棚卸高 ¥ 274,000 当期仕入高 ¥3,396,000
期末棚卸高 ¥ 260,000
- ② 工場消耗品 期首棚卸高 ¥ 80,000 当期仕入高 ¥ 600,000
期末棚卸高 ¥ 90,000
- ③ 賃 金 予定賃率 作業時間/時間につき ¥1,780
直接作業時間4,200時間 間接作業時間300時間
賃率差異勘定の借方に ¥45,000 の残高がある。
- ④ 給 料 当期消費高 ¥1,500,000
- ⑤ 健康保険料 当期消費高 ¥ 300,000
- ⑥ 外注加工賃 前期未払高 ¥ 70,000 当期支払高 ¥ 540,000
当期未払高 ¥ 50,000
- ⑦ 電 力 料 当期支払高 ¥ 190,000 当期測定高 ¥ 194,000
- ⑧ 減価償却費 当期消費高 ¥ 250,000
- ⑨ 仕 掛 品 期首棚卸高 ¥ 80,000 期末棚卸高 ¥ 110,000
- ⑩ 当期中に副産物が発生し、その評価額は ¥380,000 である。

- (2) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

製造原価に販売費及び一般管理費を加えたものを ア という。なお、製品の製造・製品の販売・企業全般の管理に関係しない費用は、原価に含めない。このような費用のことを非原価項目といい、 イ や災害損失などがある。

1. 販売価格 2. 総原価 3. 支払利息 4. 支払家賃

- (3) 単純総合原価計算を採用している岡山製作所の次の資料から、月末仕掛品原価を求めなさい。

- ただし、
 i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
 ii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。
 iii 正常減損は製造工程の終点で発生しており、正常減損費は完成品のみに負担させる。

資 料

① 生産データ

月初仕掛品	400kg (加工進捗度50%)
当月投入	3,200kg
合計	3,600kg
月末仕掛品	500kg (加工進捗度40%)
正常減損	kg
完成品	3,000kg

② 月初仕掛品原価

素材費	¥ 588,000
加工費	¥ 660,000

③ 当月製造費用

素材費	¥ 4,960,000
加工費	¥ 9,300,000

- (4) 標準原価計算を採用している広島製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

- a. 月末仕掛品の標準原価 b. 作業時間差異 c. 予算差異

- ただし、
 i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。
 ii 解答欄の () のなかに不利差異の場合は (不利)、有利差異の場合は (有利) と記入すること。

資 料

① 標準原価カード

A製品		標準原価カード		
	標準消費数量	標準単価	金	額
直接材料費	5kg	¥ 400	¥ 2,000	
	標準直接作業時間	標準賃率		
直接労務費	2時間	¥ 1,700	¥ 3,400	
	標準直接作業時間	標準配賦率		
製造間接費	2時間	¥ 900	¥ 1,800	
	製品/個あたりの標準原価		¥ 7,200	

② 生産データ

月初仕掛品	100個 (加工進捗度60%)
当月投入	1,100個
合計	1,200個
月末仕掛品	200個 (加工進捗度40%)
完成品	1,000個

③ 実際直接労務費

実際直接作業時間	2,100時間
実際賃率	¥ 1,600

④ 製造間接費実際発生額 ¥ 1,938,000

⑤ 製造間接費予算 (公式法変動予算)

変動費率	¥ 400
固定費予算額	¥ 1,100,000
基準操業度 (直接作業時間)	2,200時間

- (5) 次の文の のなかに、適当な金額・数量・比率を記入しなさい。

山口工業株式会社は、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における次の資料から、損益計算書を作成したところ、営業利益は ¥ a で、損益分岐点の販売数量は b 個であった。

今後、変動費が製品/個あたり ¥ 4,180 になることが予想される。販売数量および販売単価は当月と変わらない場合、目標営業利益 ¥ 12,000,000 を達成するには、固定費を c % 減らす必要がある。

資 料

- ① 販売数量 3,200個 ③ 変動費 ¥ 4,000 (製品/個あたり)
 ② 販売単価 ¥ 10,000 ④ 固定費 ¥ 6,900,000

4

個別原価計算を採用している沖縄工業株式会社（決算年/回 3月3/日）の下記の資料によって、

- (1) /月/0日の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 消費賃金勘定・製造間接費勘定・製造部門費配賦差異勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (4) A製品（製造指図書#/）の原価計算表を作成しなさい。
- (5) 月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材 200個 @¥4,150 ¥ 830,000
仕 掛 品（製造指図書#/） ¥6,510,000（原価計算表に記入済み）

ii 素材の消費高の計算は先入先出法によっている。

iii 賃金の消費高は、作業時間/時間につき ¥1,200 の予定賃率を用いて計算し、消費賃金勘定を設けて記帳している。

iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額（予算額）	¥10,230,000	¥6,120,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	18,600時間	15,300時間

取 引

/月 6日 素材を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材 700個 @¥4,200 ¥2,940,000

/0日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材520個を消費して製造を開始した。

24日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金 総 額 ¥3,400,000

うち、控除額 所 得 税 ¥360,000 健康保険料 ¥176,000

3/日 ① 消耗工具器具備品の当月消費高 ¥371,000 を計上した。（間接材料）

② 当月の作業時間は、次のとおりであった。よって、当月の賃金予定消費高を計上した。

		合計	内訳	第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#/	1,450時間		560時間	890時間
	製造指図書#2	1,310時間		940時間	370時間
間接作業時間		300時間			

③ 上記②の直接作業時間によって、製造部門費を予定配賦した。

④ 健康保険料の事業主負担分 ¥176,000 を計上した。

⑤ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料 ¥172,000 保 険 料 ¥68,000 減価償却費 ¥185,000

⑥ 製造間接費を次のように各部門に配分した。

第1製造部門 ¥562,000 第2製造部門 ¥354,000

動 力 部 門 260,000 修 繕 部 門 156,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	20kW×450時間	15kW×200時間	———	10kW×100時間
修繕部門費	修 繕 回 数	12回	8回	6回	———

⑧ A製品（製造指図書#/）200個が完成した。

⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥3,519,000 を計上した。

⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑪ 第1製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

⑫ 第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

第89回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解答用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	-----

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1)

工程別総合原価計算表

令和〇年/月分

摘 要	第 / 工 程	第 2 工 程
工程個別費 素 材 費		—
前工程費	—	
労 務 費		920,000
経 費		352,000
部門共通費配賦額	128,000	112,000
補助部門費配賦額		
当 月 製 造 費 用		
月初仕掛品原価	460,000	1,116,000
計		
月末仕掛品原価		820,000
工程完成品原価		
工程完成品数量	2,500個	2,000個
工 程 単 価	¥	¥

(2)

第2工程の月末仕掛品原価 ¥
に含まれる前工程費

(3)

第 / 工 程 半 製 品

前 月 繰 越	785,000	第 2 工 程 製 造	2,916,000
() ()		売 上 原 価	()
		次 月 繰 越	()
()			()

2

得点

3

(1)

a	当 期 材 料 費 ￥
b	当 期 経 費 ￥
c	当 期 製 品 製 造 原 価 ￥

(2)

ア	イ

(3)

月 末 仕 掛 品 原 価 ￥

(4)

a	月 末 仕 掛 品 の 標 準 原 価 ￥
b	作 業 時 間 差 異 ￥ ()
c	予 算 差 異 ￥ ()

(5)

a	￥
b	個
c	%

3	
得点	

4

(1)		借 方	貸 方
	/月/0日		

(2) 消 費 賃 金

製 造 間 接 費

製 造 部 門 費 配 賦 差 異

1/1 前 月 繰 越 2,000

(3) 部 門 費 振 替 表

相互配賦法

令和〇年/月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部 門	第 2 部 門	動 力 部 門	修 繕 部 門
部門費合計		1,332,000	562,000	354,000	260,000	156,000
動力部門費	kW数×運転時間数				—	
修繕部門費	修 繕 回 数					—
第1次配賦額						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修 繕 回 数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(4) 製造指図書 # /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
5,810,000	480,000	第 1	400	550	220,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	個
						製品単価	¥

(5)

月末仕掛品原価 ¥

4

得点

第89回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解 答]

1	借 方	貸 方
a	製 造 580,000	従業員賞与手当 580,000
b	材料消費価格差異 16,000	消 費 材 料 16,000
c	A 組 製 造 2,170,000 B 組 製 造 930,000	組 間 接 費 3,100,000
d	1 級 製 品 1,584,000 2 級 製 品 1,650,000 3 級 製 品 792,000	製 造 4,026,000
e	売 上 原 価 1,300,000	工 場 1,300,000
f	製 造 7,000	仕 損 費 7,000

2

(1) 工程別総合原価計算表
令和〇年/月分

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程
工程個別費 素 材 費	1,817,000	—
前工程費	—	2,916,000
労 務 費	1,380,000	920,000
経 費	376,000	352,000
部門共通費配賦額	128,000	112,000
補助部門費配賦額	156,000	104,000
当 月 製 造 費 用	3,857,000	4,404,000
月初仕掛品原価	460,000	1,116,000
計	4,317,000	5,520,000
月 末 仕 掛 品 原 価	242,000	820,000
工 程 完 成 品 原 価	4,075,000	4,700,000
工 程 完 成 品 数 量	2,500個	2,000個
工 程 単 価	¥ 1,630	¥ 2,350

(2) 第2工程の月末仕掛品原価 ¥ 640,000
に含まれる前工程費

(3)

第 1 工 程 半 製 品		第 2 工 程 半 製 品	
前 月 繰 越	785,000	第 2 工 程 製 造	2,916,000
(第 1 工 程 製 造) (	4,075,000)	売 上 原 価 (	1,134,000)
		次 月 繰 越 (	810,000)
	(4,860,000)		(4,860,000)

3

(1)

a	当 期 材 料 費 ￥	4,000,000
b	当 期 経 費 ￥	964,000
c	当 期 製 品 製 造 原 価 ￥	14,364,000

(2)

ア	イ
2	3

(3)

月 末 仕 掛 品 原 価 ￥	1,375,000
-----------------	-----------

(4)

a	月 末 仕 掛 品 の 標 準 原 価 ￥	816,000
b	作 業 時 間 差 異 ￥	102,000 (不 利)
c	予 算 差 異 ￥	2,000 (有 利)

(5)

a	￥	12,300,000
b	1,150	個
c	4	%

4

(1)		借	方		貸	方
/月/〇日	製	造	2,174,000	素	材	2,174,000

(2)		消	費	賃	金	
1/31 賃	金	3,519,000	1/31 諸	口	3,672,000	
〃 賃	率 差 異	153,000				
		3,672,000			3,672,000	

	製	造	間	接	費	
1/31 消耗工具器具備品	371,000	1/31 諸	口	1,332,000		
〃 消 費 賃 金	360,000					
〃 健 康 保 險 料	176,000					
〃 諸	口 425,000					
	1,332,000			1,332,000		

	製	造	部	門	費	配	賦	差	異	
1/1 前 月 繰 越	2,000	1/31 第 2 製造部門費	25,000							
31 第 1 製造部門費	28,000	〃 次 月 繰 越	5,000							
	30,000		30,000							

(3) 部門費振替表
相互配賦法 令和〇年/月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部 門	第 2 部 門	動 力 部 門	修 繕 部 門
部門費合計		1,332,000	562,000	354,000	260,000	156,000
動力部門費	kW数×運転時間数	260,000	180,000	60,000	—	20,000
修繕部門費	修 繕 回 数	156,000	72,000	48,000	36,000	—
第1次配賦額		416,000	252,000	108,000	36,000	20,000
動力部門費	kW数×運転時間数	36,000	27,000	9,000		
修繕部門費	修 繕 回 数	20,000	12,000	8,000		
第2次配賦額		56,000	39,000	17,000		
製造部門費合計		1,332,000	853,000	479,000		

(4) 製造指図書 # / 原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
5,810,000	480,000	第 1	400	550	220,000	直接材料費	5,810,000
	1,740,000	第 1	560	550	308,000	直接労務費	2,220,000
	2,220,000	第 2	890	400	356,000	製造間接費	884,000
					884,000	製造原価	8,914,000
						完成品数量	200 個
						製品単価	¥ 44,570

(5)	月末仕掛品原価	¥ 4,411,000
-----	---------	-------------